

令和8年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和8年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和8年7月21日(火曜日) 午後7時00分～午後8時30分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	1 開会 2 報告・協議 (1) 令和8年度立川市スポーツ推進審議会開催について (2) 令和7年度スポーツ振興課の事業報告について (3) 令和8年度スポーツ振興課の事業計画について (4) ピックルボール導入について 3 その他
資料	・資料1 令和8年度立川市スポーツ推進審議会開催について ・資料2 令和7年度スポーツ振興課事業報告 ・資料3 令和8年度スポーツ振興課事業計画 ・資料4 ピックルボール導入について
出席者	[委員] 原田 尚幸、芦澤 清八、隈崎 由紀子、福原 憲生、山口 聡、 永島 康雄、原 宏樹、田尻 逸輝、山田 恵理、小川 祐太郎 [事務局] 奥野 武司(文化スポーツ部長)、伊東 佐知子(スポーツ振興課長)、 武村 俊泰(企画調整係長)、秋元 公貴(スポーツ振興係長)、 一宮 友美(スポーツ施設係長)、中島 寛高(スポーツ振興係) 中山 桜(スポーツ振興係)
公開及び非公開	公開
傍聴者数	1人
担当	文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係 電話 042-529-8515

1 開会

- (1) 挨拶
- (2) 委員の紹介
- (3) 自己紹介

2 報告・協議

- (1) 令和8年度立川市スポーツ推進審議会開催について

＜資料1に基づき事務局（スポーツ振興課長）から説明＞

（会長） 意見、質問などはあるか？

（意見、質問なし）

- (2) 令和7年度スポーツ振興課の事業報告について

＜資料2に基づき事務局（スポーツ振興課長）から説明＞

（会長） 意見、質問などはあるか？

（委員）「8.柴崎市民体育館の管理運営（1）直営時からの継続事業分①みんなでストレッチ教室②軽体操教室」について、「※いずれも練成館で開催」と書いてあるが、これは人数が増えたのか、減ったのか知りたい。

（事務局）正確な人数についてはすぐにはわからない。

（事務局）柴崎市民体育館で行っていた事業の中でも大変人気がある事業で、それを北に集約するのはという利用者からの意見があったので、人数とか回数まではわからないが、近場の南側で開催するということを重点において開催した。

（委員）「4.スポーツ団体・自主グループの作成（2）学校部活動地域連携・地域移行トライアルの新規事業」で、「検証や課題を明らかにしました」と書いてあるが、検証と課題が明らかになったということが、どこを見ればわかるのか知りたい。

（事務局）課題は整理ができていますが、公開は行わず、令和8年度以降の事業に向けて内々で整理をしている状況である。令和7年度は、ソフトテニスで事業をさせていただいた。指導者にしっかり教えていただいているということで、部活にかかわるということよりも、技術向上ができたというご意見が多かった。開催場所によって、かなり参加者が学校に偏ってしまったので、本来ある中学校に対し、均等にできるように人を集めるにはどうすればいいかという場所的な問題が、実際やってみた課題として挙がった。

（委員）中学校の校長会にトライアル事業のアナウンス等はどういう形で行われたのかということを知りたい。令和8年度の計画にも日程は未定で載っているが、学校部活動地域連携は中学校が中心だと思うけれど、校長先生たちにこのトライアル事業があったという認識があるのか、自分はあったという認識がない。月1回の校長会で指導課からその話があった記憶もないが、今後どういう形でアナウンスしていただけるのかということも令和8年度に向けて知りたい。

（事務局）部活移行の連携等については、教育委員会指導課と、部活なのでスポーツだけでなく文化の部門とも、今年の3月くらいから意見交換が実施されている。検討委員会が、今月末に実施される予定でスポーツと文化と指導課の意見をまとめた形で報告されると思う。定期的に意見交換を行い、指導課と共有している状況である。令和8年度についてもスポーツ部門としての計画を共有している。

（委員）そういう場でもう1回その検証や課題を文書で明らかにしてもらい、校長先生たちにも認知できるようにしていきたい。私は校長会会長でもあるので、そういう形で連携をとっていきたいと思うので、お願いしたい。

（文化スポーツ部長）今いただいたご意見については、教育委員会の指導課とも、校長会での事前の説明等をやる方向で調整をできればと考えている。今年度は、昨年度に引き続いてのソフ

トテニスに加え、バスケットボールでトライアルをやってみようと、2種目で展開を予定している。実施時期等についてはこれから調整を行う。

(委員) 来週の部活動の委員会で発表されるのかはわからないが、せっかく共有できる場所があるならば共有した方がいいと思う。今年度、バスケもやられるということであれば、ぜひ共有していただきたいと思う。

(文化スポーツ部長) 部活動のトライアル事業に関しては、年2回、部活動の地域連携・地域移行に関しての検討委員会があり、昨年の12月に開催したときには、その時点でソフトテニスの10回の事業は終了していたので、あくまでもまだ速報的な検証内容だった。実際にやってみて、参加された生徒さんからこういう反応があった、指導に携わった市のソフトテニス連盟の方からのご意見の検証の報告は、まだあくまで検証中の速報だったので、口頭で、私からご報告をさせていただいた記憶がある。まだ引き続きこの部活の問題に関しては、我々も昨年度初めてトライアルを行ったところで、これからさらに拡充をさせていかなければいけないという認識もあるので、校長会でのご報告、また次に向けて我々が今考えていることの共有等、ぜひさせていただいた方が有益な事業展開に繋がると思うので、今後も進めていきたいと考えている。

(3) 令和8年度スポーツ振興課の事業計画について

＜資料3に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明＞

(会長) 意見、質問などはあるか？

(会長) 泉市民体育館と柴崎市民体育館は、指定管理者は同じか？

(文化スポーツ部長) 令和8年度から両館一括で行っている。昨年秋に選定審査会を行った。これまで、両館でより良い運営を競い合っていたという意図もあった一方で、同じ立川市の総合体育館なのに行っているサービスが違うことに対してのご意見もいただいていた。とりわけ今人の確保、体育館、トレーニングやプール等に携わるスタッフの確保が非常に大きな課題になっている。その中で、両館一括で運営することは、スタッフを共有し、人材を回すことができるなど、泉市民体育館と柴崎市民体育館で人材の交流や、それらを含めた両館の安定的な運営を考えると、事業者にもそのメリットが非常に大きい。令和8年1月から施設予約システムが全く新しいものにかわった。スポーツ施設に関しては、体育館はこれまでもシステムから予約をしていたが、屋外体育施設や練成館はシステムに対応していなかった。それを今回全てのスポーツ施設をオンラインでスマートフォンやパソコンから予約できるようにした。現場のシルバー人材センターの方に担っていただいて、現場の管理人さんにもその対応をお願いするという、大きな仕事の変革期にある中で、システムの改修や、今回の新たなシステムに全てのスポーツ施設を盛り込むという取り組みを、当時、泉市民体育館の指定管理を受けていた事業者が、唯一その状況や、調整の過程等を準備の段階から知っている状況だった。今回の両館の指定管理者を選定するにあたり、その時点で泉市民体育館の管理運営を担っていたところに、特命随意契約をお願いするのがよからうということになり、シンコースポーツ、立川市スポーツ協会、また機械設備関係を担うアズビルという、三者の経営体が運営をしている状況である。

(委員) 市民あるけあるけ運動は健康推進課の健康ポイントとタイアップしているのか？

(事務局) あるけあるけ運動は、健康ポイントと連携している。イベントの中で、健康ポイントと連携しているものをいくつか準備をしている。「普及促進の(1)体力アップ体操教室」はかなり参加者も多くて人気事業であり、すでにタイアップしている。「(7)体力年齢測定会」も連携している。いくつかの事業の中で、ふさわしいものについてはすでにポイント事業として、連携している状況である。

(委員) 図書館推進協議会では、「中央図書館にも、図書館にも人がなかなか集まらない」、「中央図書館がどこにあるかがわからない人達もいる」という話が出ているので、「立川市のあるけあるけ運動の中に中央図書館等を入れてみて、ポイントがもらえる制度があるのですが、どうですか」と、個人的意見として言ってみた。あるけあるけ運動で事業としてどこを歩くとか決まってはいるとは思いますが、例えば、練成館、図書館、泉市民体育館、柴崎市民体育館等、またダイス

さんなど、立川市の施設を回るような観点はいいと思う。それぞれの図書館で課題があるので、スポーツでの歩くことによって、市民がよりよく楽しめたり、理解できたりと、プラスアルファのことができるのではないかなと思った。市民あるけあるけ運動の中で、健康ポイントと結びついてやるなら、中央図書館とか立川市の中のいろいろな図書館をコースとして考えてもらおうとありがたいと個人的に思った。

(事務局) 今のご意見と我々が考えているものとかかなり近いところがある。11月に実施するあるけあるけ運動については、概ね立川市内を歩こうと考えている。いろいろ市内にある施設を探しているところであるが、実際に歩いていくコースの中で、いろいろな工夫をして検討できると思う。面白いポイントとして、例えば、クリーンセンターたちむにいで足湯につかるなどして、多方面で参加者を集めること、そういう場所に人が集まるということも、あるけ運動のポイントとして検討できればと考えている。

(委員) コースとか毎年違うのか。

(事務局) 春の時期(5月頃)に、多摩動物公園ウォークというのをやっている。秋の時期については、いろいろな魅力探しをしながら行っていて、去年は、みかん狩りと、箱根ヶ崎方面まで歩いた。11月のプランはまだ検討中ではあるから、今日の意見も含め、参考にできればと考えている。

(会長) 毎回歩くところは同じだとマンネリ化してしまうので、例えば立川の中のいろいろな公共施設や名所などを回るようなルートだったら、毎回楽しいと思う。あるいは、新規だったら参加してみようという人が増えるかもしれないし、そこで施設とタイアップして、単なる休憩場だけではなく、何かプラスアルファのイベントなどができると、さらにイベント自体が魅力的になると思うので、ダイスの試合のある日に合わせて歩いてみるというのも一つかも知れない。ダイスに限らず、何かテーマをつけて、場所を設定して回るというのは、非常に面白い取り組みではないかなと思うのでぜひご検討いただければと思う。

(会長) ユニバーサルスポーツは明確な定義があるわけではないが、健常者、障害者という枠組みではなく、老若男女、性別も問わない、誰もが参加できるようなスポーツと位置づけられている。例えば「風船バレー」みたいなものも種目として挙げられていて、ルールもシンプルで、すぐにゲームができて、誰でも参加できるという類いのものなので、既存のスポーツでもいいし、あるいは、立川で開発したユニバーサルスポーツみたいなものもあってもいいかもしれない。その趣旨にかなえば、何でもユニバーサルスポーツにはなるところがあるので、皆様が普段やられている活動の中で、これはユニバーサルスポーツじゃないかというものがあるかも知れないし、もしアイデアがあれば、ご提案いただければと思う。

(委員) 立川市にレクリエーション協会があると思うが、立川での教員時代にレクリエーション協会の人を呼んで、ニュースポーツを体育の授業の中に取り入れたことがある。レクリエーションをスポーツと捉えるかについては、考え方もあるかもしれないが、立川市のレクリエーション協会とタイアップして、ニュースポーツ大会を行うといいと思う。レクリエーションスポーツ的な要素があると、幼児から高齢者の方まで楽しめると思う。

(4) ピックルボール導入について

<資料4に基づき事務局(スポーツ振興課長)から説明>

(会長) 意見、質問などはあるか?

(委員) アリーナ立川立飛で、7月に国際大会が行われた。当日は結構いろいろな国の方がいらしていたこともあり、ららぽーとなどいろいろな所にいろいろな言葉が流れていて、すごくいいなと思った。今回、TBSからの申し込みで行われたが、規模もすごく大きく、スポーツとしては、これからどんどん大きくなっていくのかなという印象を受けた。ららぽーともそうだが、アリーナとドームの間の屋外の広場で体験会があり、子供さんなどがすごく楽しそうにやっていた。立

川市さんが今後推進していくと思うが、目的としては、手軽なスポーツとしてスポーツ推進をすすめていく上でちょうどいい競技というところなのか、それとも野球やサッカーのようにどんどん本気になっていくのか、この競技そのものに対してどういう未来になるのかなと感じた。もし、こうかなというご意見あれば聞かせてほしい。

(事務局) アリーナで行われた国際大会を見に行っただが、かなり競技性の高い技術だった。実際には導入の背景にあるように、ボッチャやモルックというニュースポーツをかなり推奨しながらやっているが、もう少し体を動かしたいとか、運動習慣がないから楽しみながら運動習慣をつけたいなどのご意見があり、目的としては、このスポーツが健康増進につながるとか、多世代で同時にできるというところである。どちらかといえば、皆さんでできるスポーツの機会を提供していくことで、この種目を広めていきたいと考えている。

(文化スポーツ部長) テニスとバドミントンと卓球の要素と書いてあるが、それぞれの競技となると、中学のときからやっているような経験者の輪の中に1から入っていくというのはどうしても心理的なハードルが高い。まだそんなに普及していないスポーツであり、バドミントンのコートの広さで、ネットも低い位置に張る、立川におけるミニテニスと同じような感覚で競技環境も整えやすいという様々な利点を考え、今から遊びの延長で体を動かしてみることができるという敷居の低さが丁度いい塩梅だということで、このピックルボールに着目した。

昨年着目し、独自の提案ということで、直接市長に提案するチャレンジ提案枠という、市の予算編成の枠組みの中で、まさに市長に直接動画を見せながら、プレゼンした。そのときには世界大会がアリーナ立川立飛で行われるとは想像もしなかったが、こういう取り組みをやろうと予算化した。今市内でも、泉体育館で、団体利用でコートを借りて、ピックルボールを親しんでやっている団体が3団体ほどある。一方で、TBS が動いて、国際大会を誘致する動きがあるなど、今メディアでもピックルボールを目にする機会が、少しずつ増えてきている。我々としては、スポーツ推進委員の皆さんにご協力いただきながら、まずは地区でお試しでやってみていただいて、どれぐらい楽しめたか等を伺いながら、将来的には、体育館の個人開放のときに、今はバドミントンもしくはミニテニスをやる選択肢しかないが、ピックルボールの道具も貸し出し、バドミントンのコートでできることを伝えることで、やってみようかなという動きが出てくると、また一つ普及のステージが変わってくるのかなと考えている。

(委員) ミニテニスの「世代の高齢化」とあるが、若い人はあまりやらなくなったということか？新しい人はあまり入ってこないのか？ミニテニスが最初普及したとき、40歳以上の人がやってください、若い人は普通のテニスをやってくださいというような話を受けた。ピックルボールは、なるべくラリーが続くよう必ずワンバウンドで返すのか？

(事務局) ミニテニスを始めた世代の方も高齢となり、ミニテニスをするのも大変になっていると思われる。ピックルボールはボールが早くないので高齢者にも楽しめるスポーツと思っている。サーブを打った後にレシーブをする人は必ずワンバウンドで返し、サーブを打った人ももう一度ワンバウンドで返すところまでが、ピックルボール独自のルールとなっている。ラリーが続くようにルールが工夫されている。

(文化スポーツ部長) ミニテニスも最初のうちは、中高年の方が体を動かすみたいなイメージだったのが、今、体育館の個人開放に来ている方の中には、かなり激しい運動として競技を親しんでいる方が増えている。小さいビーチボールのようなボールなので、かなり回転をかけることができるため、競技として発展をし、そういう楽しみ方も生まれているということでは全く否定するような話ではないが、今から入り込むには、場合によっては敷居が高く感じる方もいるのかなという意味で、このピックルボールはまだ横一線の状況といえる。

(委員) 実際に貸し出しとなった時に、テレビでは選手の皆さんが真っ黒に日焼けしていて、この間の大会でも日焼けした方々がプレーされていたが、今のところ体育館で使う前提で貸し出しを行うのか。

(事務局) ボールは、室内も室外も購入している。違いは穴の数の違いで空気抵抗によるものである。数のバランスでは室内のボールの方がかなり多い状況である。室外で行うとなると、スペ

ースはあってもラインが引けないということになる。バドミントンコートが引いてあるところであれば、体育施設だけではなく、学校でも使えると思う。ネットも4セット購入してあるので、そちらも使うことで、学校でも使用可能と思う。まずは室内で、学校施設、体育館等で使っていただくことをすすめていきたい。

(文化スポーツ部長) わざわざボールに違いがあるものが用意されているように、競技としては両方可能だが、立川市内で普及をしていくと考えたとき、屋外でのネットの張り方や、公式のサイズの線の引き方などに手間が生じてしまうので、普及していく上では、室内競技、体育館でやる競技というイメージの方がすすめやすいと考えている。

(会長) 現時点ではお試しの段階だと思うが、うまく市民の皆さんに使っていただくために、なぜ立川でピックルボールなのか、ストーリーも合わせて、その説明をしないといけないと思う。ピックルボールは実際アメリカでかなり人気が出ていて競技人口も増えているということもあり、日本でもこれから競技人口が増えていく種目であり、将来性という意味で予想がつく。既存のコートを使ってすぐに取り組み、ルールもシンプル、老若男女、レベル問わずできるような、手軽にできるスポーツであると思う。ちょうど7月1日にアジアのツアーが立飛のアリーナで行われたということで、それがきっかけで立川でピックルボールという流れは、ストーリーとしてはあると思う。例えばシアトルで始まったのであれば立川がシアトルの姉妹都市であれば、その流れで立川でも始めたとか、あるいは、ピックルボールを立川が聖地にするという位置づけなのかとか、どれだけ本気なのか、うまくいかなかったらやめてしまうようなレベルなのか、それらも含めてまずはお試しだと思う。他市の話だが、川崎市で、アメリカンフットボールの世界選手権が等々力で行われたのをきっかけに、川崎市の小学校でフラッグフットボールを授業の教材として取り入れたということがあって、それはストーリーとしては非常にありでわかりやすい。立飛でアジアツアーが初めて開催されたというのをきっかけに、立川でもピックルボールを広めるというストーリーは非常にわかりやすく入りやすい気もするので、それに絡めていくのがいいと思う。目的としては、審議会では、立川市第3次スポーツ推進計画のところで週一回以上スポーツを行っている市民の割合の目標値があるので、そこに近づくための新たな一手としてピックルボールを導入して、親しむ人たちを増やすための一手であるという位置づけである。可能性はたくさんあり、屋外でも空きスペースがあればできるものなので、立川市民のスポーツ実施率向上に繋がるようになっていけばいいと思う。

(委員) ピックルボールをやるとなったときに、簡単な動画等があるとやりやすいと思う。例えば体育会でやるとなったときに、自分がやってなければなかなか説明ができないが、ピックルボールの概要や、ラケットの持ち方やボールの大きさなどを説明したDVDのようなものがあると普及しやすく、使いやすいと思う。

(会長) YouTubeでもある。「佐世保市長がやってみた」というがあるので、ぜひ「立川市長がやってみた」というのを作ってくださいとこの前お願いした。立川市の皆さんも自分事としてできると思うので、実際に立川の皆さんがやってらっしゃるような動画がいいと思う。

(文化スポーツ部長) この予算取りをするときに市長に提案した時は、卓球経験者である私と、バドミントン経験者である職員が、実際に打ってやってみたという動画を見ていただいた。また、プラスチック製のパドルでプラスチック製のボールを打つと、パコン、パコンと、鳴る音が心地いい。そういう雰囲気だけでも動画で見ていただき、どのような感じで楽しむのかということは映像を見ていただくと一目瞭然だと思う。先ほどご紹介いただいたように、YouTubeでもこういう競技ですよというのを紹介できる動画がありそうなので、普及する際には、そういったツールの活用も検討しながらすすめていければと思う。これは面白そうだなという手応えがあれば、市長に登場してもらっても検討してみる。

(会長) 市長がいなくても、「校長先生がやってみた」でも構わないと思う。そのときは委員の方の協力もぜひお願いしたい。人がやっているの見てるのではなく、自分たちの身近な人たち、知ってる人がやってるというのがきっかけで始めましたというのも全部ストーリーの中に入ってくると思う。「バスケの選手がやってみた」でもいいと思う。立川のスポーツがどういう人たちによって支えられてるのかという関係者の皆さんに、登場してもらい、それを動画にして流す

だけでも全然違うと思う。お金かけなくてもすぐにでもできる。市民への啓発の動画としてはもってこいだと思う。それを通していろいろな場所やいろいろな人たちが立川のスポーツに関わっているということと、ピククルボールの面白さも伝わるというのは、ありだと思う。立川市の公式 YouTube はあるのか。

(文化スポーツ部長) 立川市の公式 YouTube はある。市長はいろいろな経験をすると言って、リサイクルセンターでゴミの分別を行う様子などを発信しているので、これ面白いですよと伝えたら、意外とやってもらえる可能性はなくはない。

(会長) 立川市ゆかりのマスコットがやってみたみたい、いろいろなマスコットに出てもらって、アイディアを実行に移していくということが、いろいろなところに繋がっていくような気がする。半分冗談で半分本気で、ぜひ実現していただければと思う。

3 その他

(1) 委員からの情報提供について

(委員 A) 第 28 回ボッチャ日本選手権大会 関東・甲信越ブロック予選会出場の話についてお話したい。

ボッチャとは、赤いボールと青いボールを、「あと球（あとだま）」となる白いボール 1 球に近づけるといふスポーツである。2026 年 7 月 24 日～26 日に千葉県千葉市の千葉ポートアリーナにて第 28 回ボッチャ日本選手権大会関東・甲信越ブロック予選会が開催されることになった。去年までは西日本と東日本の 2 つに分かれていたのが、今年から予選会で北海道から沖縄までの各地方を 4 つのブロックに分けられ、それぞれのブロックで勝ち上がると、2027 年の 1 月 15 日～17 日に愛知県豊田市で開催される第 28 回ボッチャ日本選手権大会本大会に出場できる。今回この予選会に、主に立川市内で練習活動をしていて、立川市立第 3 小学校で主に練習活動をしている「ポルテ多摩」というチームから、自分も含めて立川在住の 3 選手が出場する。ボッチャは障害の程度で、BC1 から BC4 のクラスに分けられ、BC1、BC3、BC4 クラスにそれぞれ 1 名ずつ出場することになっている。勝ち上がると本大会に出場することが出来るので、自分を含めて本大会に出場できるように、練習の成果を出せるようにがんばっている。立川市でも障害を持ちながら、ボッチャなどの障害者スポーツを楽しむ人がいること、障害を持ちながらもスポーツを楽しむ、競技としてボッチャの各地の大きな大会に参加していることを皆さんに知ってもらうことで、障害者スポーツの普及や発展に繋がっていくと思う。ぜひ知り合いの方などに、ボッチャ日本選手権大会に出ることを、共有していただけるとありがたい。ボッチャはまだ知られていないところもあるので、障害を持っていてスポーツを探してるもののなかなかみつからないという方が、この大会がボッチャを知る機会となり、競技者の増加にもつながると思うので、大会の共有をぜひお願いしたい。

(委員 B) 今、モルックという言葉がよく出てくる。錦町体育会では毎年、運動会をはじめ、四つの大会を企画しているが、その一つとして、令和 8 年度から、第 1 回錦町対抗モルック大会を行った。大会当日初めての方も多かった中で、そこで即席の教室を開き、投げ方から大会のルールなどを教わった。錦町体育会では、事前に老人会のグラウンドゴルフ大会でモルックをやったところ、「面白い」と言ってくれたので、じゃあ大会をやろうということで開催をした。モルックは、数字の書かれた木のピン、「スキットル」と、木の棒、「モルック棒」を投げて倒す、フィンランドに生まれたスポーツで、ぴったり 50 点を目指すスポーツである。最近テレビでも、企業の新入社員に対し、「チーム分けして戦わせることによって、チームワークができる」ということでモルックを取り入れている事例が紹介されていた。結構人気があるスポーツ、ゲームになっている。点数の数え方に特徴があり、50 点取って上がろうと思ってもなかなか上がれず、3 回失敗すると失格になったり、上位チームが失格になって順位が上がったりと、ハラハラドキドキのスポーツで、面白く、楽しくやれた。

(委員 C) 東京都のジュニア振興事業として、東京都とスポーツ協会と一緒にやっている昭和記念公園でのウォーキングの講習会が 9 月 12 日に行われる。元世界陸上のマラソン日本代表の選手のお 2 人に、速く走るためには、正しい歩き方をしましょうというところから、ウォーキング講習会をお願いしている。毎回 50 名ですぐいっぱいになる。募集はこれからなのでお待ちして

いる。

そして、「100 トレ体操」といって、こちらも 5 年ほどスポーツ協会がやっているもので、青山学院の駅伝競走部のトレーナーで、体幹を鍛えましょうと NHK によく出演されている、中野ジェームズ修一さんが、100 歳まで自分の足で歩いて、自分の力で食べて、自分でトイレ行けるということをやりましょうということを考えたトレーニングの体操である。100 名の募集だが、こちらもすぐにいっぱいになる。本来は 7 月だったが、台風の影響で順延になり、11 月 28 日に再度募集を行うので、よろしければお越しください。

(委員 D) 第 80 回立川市民スポーツ大会の日程について、去年も話をさせていただいたが、今年も陸上競技大会中学生の部はこの暑さの中、8 月 2 日に行われるのか。熱中症対策ということで、陸上競技協会の方たちもいろいろ対策を立てていると思うが、例えば中学生のサッカーは、例年だと海の日の 3 連休に行われていたところを、熱中症対策として、12 月 1 日から 2 月 28 日の期間に変えた経緯がある。陸上の中学生の日程は、前回は、グラウンドがここでしか取れないようなお話をされていたと思うが、基本的にこの日程は中学校の先生たちが決めているのか。

(委員 C) これは、東京都などの大会の予選会等を兼ねているので、この時期にやらないとその次の大会に上がれないと聞いている。東京都の市町村でそれぞれのスポーツ大会が今まさに開催されている。7 月 12 日にも行われたが、やはり炎天下でかなり暑かったので、午前、朝のうたと、午後等、分けるようにして、ミストも回すなど、気は遣っている。今回も朝のうちにいうとか、炎天下を外そうというようなことはやっていると聞いている。もちろん、前回のことも陸上競技協会の方には私の方からお話しているので、今回も何らかの対応は行うとは思う。再度私の方から、共有はしておくようにする。

(委員 D) 陸上競技場は公認の競技場ではないので、認定されないので参考記録ということになるが、この暑さなので、8 月 2 日も、無事に行われればいいと思う。本校では、今年大塚製菓さんと呼んで、熱中症対策講座を全校生徒に行い、専門的な人から話を聞くことで対策を行った。

(文化スポーツ部長) この 8 月 2 日の日程は、今年度に関しては早々に決めてしまっていたので、なかなか動かしようがなかった。来年度の開催に向けては、立川公園陸上競技場が、公認記録を残せる競技場ではなくなっているのが、今年度陸上競技場の改修の計画を改定して改修に向けた動きをとっていききたい。しかし、今の小中学生が小中学生でいるうちに競技場が整備できるかという、どんなに短くても 5 年 6 年かかってしまう。一生懸命陸上競技をやっているという子供たちに、ちゃんと公認記録が残せる環境をとという中で、立川市と道 1 本隔てたところにある東京女子体育大学には、公認記録が残せる公認競技場としての 300m のトラックがある。先日、立川市の陸上競技協会の会長、理事長と一緒に大学を訪問し、来年以降、ぜひそういう競技環境のもと大会を行わせていただきたい、競技会の方はなかなか難しいかもしれないが、それ以外に、東京女子体育大学として年間 7、8 回行われている記録会に生徒さん方を送り出すような環境を少し整えたいということ。また、そのときには、大学のコーチ陣、現役の選手、学生たちにも協力いただき、30 分とか 1 時間の簡単なランナークリニックみたいなものを一緒にやっていただいて、日頃の練習にも活かせるような、例えばウォーミングアップの仕方とか、トレーニングの仕方みたいなのができればというような打ち合わせをしてきた。大学側も非常に協力的な姿勢を示してくださっているので、来年の開催に向けては、大学の記録会の日程にうまくこの中学生大会を合わせられないかということを検討している。それにより、この 8 月 2 日という日程ではなく、もう少し前倒しになるのではないかなと思う。中学 3 年生にとっては、夏休みが終わってしまうと、もう完全に部活から引退をする時期に入ってしまうので、3 年生にとってもその時点での記録が残せるような機会にできればなと考えている。現在は調整中ではあるが、かなり前向きに進みそうな状況なので、引き続き調整をしていきたいと考えている。またその際には、ご提案いただいた日程の件もいい調整ができるといいなと考えている。

(会長) 東京女子体育大学は立川市と提携か何かしていますか？

(文化スポーツ部長) 包括連携協定を結んでいる。

(会長) 大学の方としても、将来の受験生の確保や大学における地域貢献など、断る理由はない

と思うので、暑さ対策という面でも実現できればと思うのでまた何か進展あれば、情報共有いただければと思う。

(会長) 以上をもって、令和8年度第1回立川市スポーツ推進審議会を終了とする。

閉会